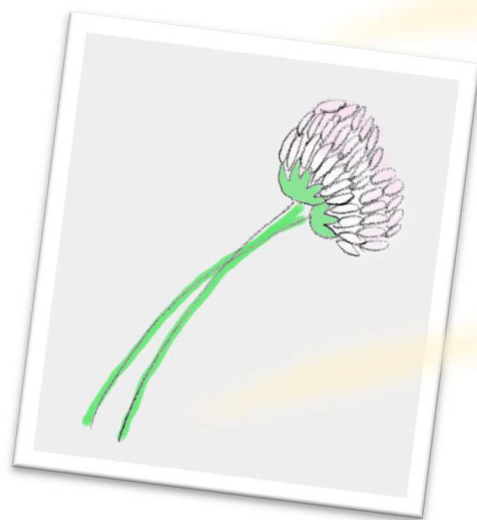


# かけがえのない 友だち



「もう少しで宿題が終わるから、ちょっと待っていてね。」

カズコの部屋で、ペロは大さわぎ。

おやつをちょうだいと、催促しています。

大好物のかぼちゃクッキーが、食べたくてしかたありません。

ペロはもう、おじいちゃん。

昼間は、毛布の上でうとうと。

ところが、朝、カズコが起きてくると、散歩に行こうとはしゃぎます。

夜、カズコが寝るころになると、おやつの催促。

ペロは、元気いっぱい走り回ります。



カズコが5歳のとき、お父さんが子犬を連れてきました。

うす茶の毛色で、コロコロと丸がるように歩きます。

カズコのところにころがってきて、さかんに手をなめています。

「うわぁ、かわいい。名前は、ペロにしようよ。」



カズコは、お母さんに教わりながら、ペロの世話をします。

ごはんやお水をあげたり、部屋を掃除したり。

毎日毎日、ちゃんと世話をするのは、大変です。

それでも、やがてカズコは、一人で世話ができるようになりました。

晴れた日は、庭や公園でいっしょに遊びます。

お昼寝の時間も、いっしょです。

お母さんに叱られて落ち込んでいると、ペロがなぐさめてくれます。

ペロはいつも、カズコのそばにいます。

カズコとペロは、とっても仲良し。

今日は、暖かい日曜日。

カズコは、公園でシロツメクサを編んでいます。

おや、ペロがシロツメクサの花をくわえてきました。

手伝ってくれて、ありがとう。

ペロは、優しいね。

カズコが頭をなでてやると、ペロはしっぽを振って大喜び。



「あー、また靴下が片方なくなっている。」

カズコの靴下は、ときどきなくなります。

ペロが、ヒミツの場所に隠しちゃうんです。

もう、探しだすのがひと苦労。

ペロは、いたずらが大好き。

カズコが文句を言っても、喜んで走り回っています。



ペロはおじいちゃんなので、散歩のときはのんびり歩きます。

とつぜん、ペロがはしゃぎ始めました。

タカシくんを、見つけたんです。

タカシくんは、近所の小さな男の子。

ペロはしっぽを振って、飛びはねています。

ペロは、タカシくんとも仲良しです。



「どうしたんだろう。カゼひいちゃったのかな。」

今朝のペロは、どうも元気がありません。

カズコが起きてきても、散歩に行きたがらないんです。

部屋の中で、ずっととうとうとしています。

かぼちゃクッキーをあげても、一口しか食べません。



お母さんといっしょに、ペロを病院に連れていきました。

ペロは、ゼゼエと息苦しそう。

ようやく立ち上がっても、ふらふらしています。

先生が口の中を診たり、レントゲンを撮ったり。

肺がんと肺炎で、もうおじいちゃんだから、手術もできない。

そう言われてしまいました。

家に帰ってからも、ぐったり。

ところが、夜中になって、急にあばれ出しました。

そのまま倒れこむと、歯をむき出して、ハーハーとけんめいに呼吸しています。

カズコが呼びかけても、体をなでても、目も動かさません。

必死に、息をしています。

やがて、呼吸がゆっくりになり、とうとう止まってしまいました。

「ペロが、死んじゃった。」

そういう自分の声は、だれか、別の人みたい。

なんだか、夢を見ているような気がします。

目をぱちりと開いているペロは、今にも動き出しそう。

なのに、いくら待っても、ピクリとも動いてくれません。

次の日、お父さんが、庭に穴をほってくれました。

カズコは、固くなったペロの体を、庭に運びます。

ペロって、こんなに軽かったんだ。

空っぽの箱を持っているみたいだな。

ペロの体を抱きながら、カズコは、変なことばかり考えていました。



カズコは、ペロの体を、穴の底に静かに置きました。

「あ、ちょっと待って。」

カズコは家の中に戻ると、かぼちゃクッキーを持ってきました。

そして、ペロの口のところに、並べてあげました。

いよいよ、お別れです。

カズコは、お父さんといっしょに土をかぶせていきます。

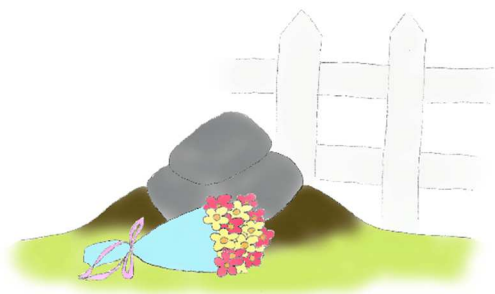
お母さんが買ってきてくれた花束を供え、手を合わせました。

カズコは、泣きませんでした。

涙や鼻水が、つぎからつぎへとたれてきます。

でも、泣いていません。

だって、あんなに元気だったペロが死んじゃうなんて、信じられないから。



そのあと、カズコはペロの部屋を掃除して、物置に片付けました。

「なんで、片付けちゃったの？」

お母さんが、ちょっと怒っています。

なんでなんだろう、自分でもよくわかりません。

ただ、ペロの部屋を見ると、お腹の中が苦しくなるんです。

ペロがないのに部屋だけあるのは、イヤなんです。

それから、何日かが過ぎました。

カズコは、以前と同じように、勉強も部活動もがんばっています。

ただ、学校からの帰り道とか、夜、宿題が終わったときとか、

急に胸が苦しくなります。

ペロがないんだと思うと、どうしようもなく苦しくなります。

今日も学校で、急に苦しくなっていました。

廊下の窓から外をながめたとき、ふとペロのことを思い出しちゃったんです。

大声で叫んでしまいそうのを、うずくまってがまんします。



何度も苦しくなるうちに、だんだんコツがわかってきました。

じっと息を止めて、心のなかで十数えます。

すると、すぐに治まって、立ち上がることができます。

しばらくすると、苦しくなることはなくなりました。

ずっとお腹が痛いような気もするけれど、息を止めてがまんしなくても平気です。

カズコは毎朝、ペロのお墓参りをしています。

ペロはとってもいい子だったね。

体がボロボロになるまで一生懸命に生きて、あまり苦しまずに死んでいった。

それでよかったんだよね。

いまはもう、そんなふうに思えるようになりました。

「おはよう、ペロ。」

今朝もカズコは、ペロのお墓の前で手を合わせています。

ふと顔を上げると、タカシくんがいます。

どこから摘んできたのかな、小さな手に、花を握りしめています。

「ペロに、どうぞ。」

タカシくんは、手を差し出しています。

ありがとう、タカシくんは優しいね。



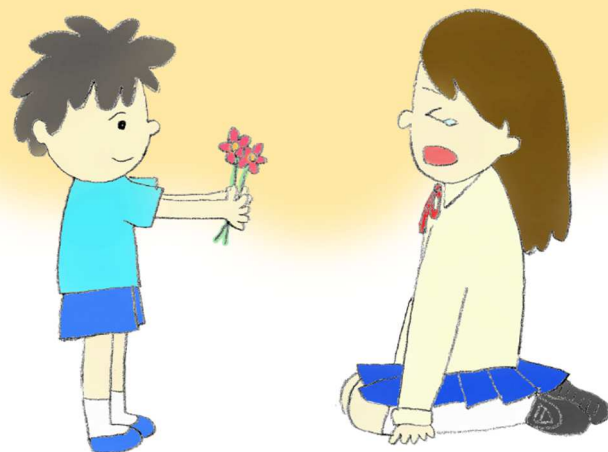
そのときとつぜん、カズコの心に、ペロがあらわれました。

元気なペロの姿が、つきからつぎへとあふれてきます。

「ありがとう、ありがとう。」

涙がどんどん出てきて、カズコはとうとう、

大声で泣き出してしまいました。



カズコには、だいじな友だちがいます。

今はもう、この世にはいません。

でも、カズコがうれしいときは、いつしよに喜んでくれます。

カズコがつらいときは、励ましてくれます。

ペロは、カズコの胸の中にいます。



「おはよう、ペロ。」

ずっといつしよにいてくれて、ありがとう。

だいじょうぶ、私は元気だよ。」

カズコは今日も、お墓の前で手を合わせます。

ペロはこれからも、カズコのだいじな、かけがえのない友だちです。

「お母さん、行ってきまーす。」

カズコは、学校へと走っていききました。

